

Amadeus Chorus
2nd CONCERT
'81 1 Nov.
Chūō-ku Chūōkaikan

アマテウス合唱団 第二回定期演奏会

George F Handel

MESSIAH

ごあいさつ

本日のご来場に心からお礼申し上げます。

創立公演に際しましては、皆様からご好評を賜りました一方、厳しいご叱責、ご指摘も数多く頂きました。私共は深く反省をいたし、心を新たにして日々研鑽を積んで参りました。

このたびの公演におきましてその成果を結集いたす所存でございます。アマデウス合唱団に幾ばくかの成長の跡がみえるとすれば、それはひとえに皆様のご支援の賜物に他なりません。

どうぞ今後とも、皆様の厳しいご批判と一層のご指導を仰ぎたくお願い申し上げます。

アマデウス合唱団 団長 橋本 克久

PROGRAM

オラトリオ「メサイア」ヘンデル作曲

Oratorio "MESSIA" G.F. Handel

演奏者

わたなへ おう き
渡邊 央己
〈指揮〉

桐朋学園指揮聴講クラスで、故斎藤秀雄氏に師事。東京芸術大学入学後、指揮を三石精一金子登氏に、声楽を伊藤巨行氏に師事。卒業後、神奈川フィルハーモニーに所属、現在NHK交響楽団で指揮研究を行なう。東京室内歌劇場主催の「地獄のオルフェウス」の副指揮を経て、「フィガロの結婚」等を指揮する。昨年、沖縄NHK主催の演奏会に招待を受け「メサイア」を指揮し好評を博した。

くろかわ かほ こ
黒川 和子
〈ソプラノ〉

東京芸術大学大学院オペラ科修了。在学中に安宅賞を受賞。芸大オペラ「修善寺物語」の桂でデビュー。第7回日伊声楽コンクールで第一位入賞。オペラでは「フルキュレ」「トスカ」「魔笛」等に出演する一方、「第九」他のコンサートでソロをつとめる。二期会会員。

めんどり すみ こ
妻鳥 純子
〈アルト〉

東京芸術大学大学院独唱科修了。1973年毎日音楽コンクール第三位入賞。海外派遣コンクール松下賞受賞。1975年よりミュンヘン音楽大学に留学。77年帰国後は、NHK青少年コンサートをはじめ、多数のコンサートにおいてソリストをつとめる。二期会会員。

よし た ゆく お
吉田 征夫
〈テノール〉

東京芸術大学大学院修了。ミュンヘン音楽大学に留学。現在、芸大博士課程在学中、同大卒業補助手、尚美音楽学院講師をもつとめる。ヨーロッパ各地にてマタイ受難曲、ヨハネ受難曲のエヴァンゲリストを演じる。オラトリオ作品を得意とする。二期会会員。

きかわ た きよし
木川田 澄
〈バス〉

東京芸術大学大学院独唱科修了。文化庁オペラ研究所第一期生修了。文化庁在外研修員として渡独、シュトゥットガルト音楽大学にて学ぶ。オペラの他コンサートではモーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」等のソロで活躍。二期会会員。

いしはら よう こ
石原 陽子
〈チェンバロ〉

1979年武蔵野音楽大学ピアノ科修了。中根伸也、丸山徹薫、相良優子諸氏に師事、1980年君津新人演奏会に出演、その他オペラ等のチェンバロ奏者を多くつとめる。

〈管弦楽〉 アマデウス管弦楽団

※合唱指導 / 鈴木 優

メサイア解説

この「メサイア」というオラトリオは、必ずしも連続した事件を通じてストーリーが展開していくわけではなく、また具体的な登場人物が設定されているわけでもありません。そのためキリスト教や聖書の詩句に縁の薄い我々にとって、曲相互間の関連性や全体としての物語性が希薄であると考えがちですが、よくテキストを観察すると、そこには救世主として出現したイエスが、その受難と復活を通して神の国をもたらしたという救いの歴史が一つの流れをもって語られていることがわかります。

PART I

さてこの第一部では救世主（メサイアとは本来“香由をそそがれし者”という意味があり、それは“救世主”を意味する言葉となっています）の出現の予言、イエスの降誕、そして現世に於けるイエスの姿が描かれていきます。

まずNo.1は管弦楽による序曲ですが、前半の符点のリズムによるゆっくりとした部分と後半のフーガを通じて暗い雰囲気が終始し、あたかも救世主出現以前の暗い世界を暗示しているかのようです。続く部分では、テノール独唱によるNo.2、3と合唱によるNo.4によって救世主出現の予言が歌われていきます。No.1の暗い世界とは対称的に明るい、穏やかな調子で予言が語られ始め、No.3では技巧的な細かい動きによって高揚されていき、No.4でははっきりとした確信が3拍子の生き生きとしたリズムを持ち、合唱によって歌われます。

No.5、6はバス独唱、そしてNo.7は合唱ですが、No.5は悪が栄え正義が虐げられる現状への不信といったものに対する答で

ヘンデルは1685年2月23日、ハツハの生まれる1カ月前に中部ドイツのハレという町で生まれました。最初は父親の意向通り法律を勉強していましたが、教会のオルガニストから音楽家への道に進んでいきました。当時の音楽の中心はイタリアで、彼も1706年から3年間イタリアでオペラを学びました。そして、1710年にイギリスに渡り、オペラをかき始めたのですが、この時代には市民階級の台頭に伴い貴族趣味のイタリア・オペラは好まれなくなり、オペラからオラトリオの作曲に力をいれるようになったのです。晩年のヘンデルは1753年に失明後も音楽活動を続け、1759年4月14日に世を去りました。その遺体はウエストミンスター聖堂に葬られ、メサイアの楽譜を持った像がたてられています。

あり、No.6、7は世の罪を裁く者の到来に対する人々の不安や恐れ の気持であるといえます。

No.8でアルト独唱によって受胎告知が語られ、No.9ではまざアルト独唱、そしてそれを合唱が引き継いで喜びと主の栄光への賛美が拍子のリズムによって歌い上げられます。— No.10カット — No.11はバス独唱による、歌詞を描写的に扱ったアリアです。“暗きを歩める民”という部分は、まるで暗闇を手さぐりするような半音の音程が多様され、“大いなる光を見”という部分は明るい長調で作曲されています。そしてNo.12では合唱によって、いよいよNo.2以来の予言が実現し、我々に救世主たる一人のみどり児が与えられたと歌われます。この合唱曲は第一部のクライマックスともいえる規模の大きいものであり、そのテーマは本当に待望久しかったものが与えられた喜びの発露たるにふさわしい素晴らしいものであるといえるでしょう。

No.13はシチリアーナという舞曲リズムによる管弦楽の田園交響曲で、この舞曲は本来シチリアの牧人のものであり、ヨーロッパではクリスマスを象徴するものとなっています。No.14、15、16ではソプラノ独唱によって、羊飼いの所へ天使が降誕を知らせるといった事柄が歌われ、No.17の天の軍勢の合唱によりこの部分は一段落します。そして第一部最後のNo.18～21では、現世に於けるイエスの姿が描かれています。No.18はソプラノ独唱により人類に平安をもたらす神として、No.19ではイエスが行なった奇蹟を、そしてNo.20、21はイエスの招きの言葉であるといえます。ここでは珍しく聖書上のイエスの直接の言葉がテキストとなっています。



サイアは1742年4月13日、アイルランドのダブリンで、囚人の救済及び病院の援助のための慈善演奏会として初演され、絶賛を浴びました。しかし翌年のロンドン公演の際には、劇場を使用して宗教オラトリオをやるということに対し、教会等の批判もあり必ずしも成功とは言い難い状態でしたが、再演されるうちに正当な評価を得るようになりました。

メサイアといえば、クリスマスに演奏されるものと思われていますが、ヘンデル生前の演奏記録をみていくと、決してそのようなことはなく、単なるクリスマス・オラトリオとしてではなく、神の予言・誕生・受難・復活とキリストの永遠の生命について語られたオラトリオとして受けとられていたことがわかります。

PART II

第二部に於いてはイエスの受難と復活、そして地上に神の国が打ち建てられ救いの予言が成就されるという内容となっています。

No22は重々しいリズムの暗い合唱曲で、十分にイエスの受難を予感させる曲です。“小羊”はイエスとオーバーラップしたイメージで、その罪のない血によって全人類の罪をあがなうという信仰のシンボルといえるでしょう。

No23のアルト独唱とNo24、26の合唱—No25はカット—の歌詞は旧約イザヤ書の“主のしもべの詩”と呼ばれる部分で、イエスの受難を暗示したものです。No23の中間部とNo24では符点のリズムが支配していますが、これはバロック期には受難を象徴するリズム型であったようです。No26では一見楽しい音楽の中に迷える羊の姿を描いていきますが、“すべての者の不義を彼（イエス）の上におかれた”という部分は一転して短調の壮厳な音楽となっています。—No27、28カット—No29、30、31、32はテノール独唱によって歌われます。この部分はとかく聞き流されがちですが、ストーリーの上では大きな分岐点であるといえます。No29はイエスの十字架上での心情、No30はその絶望的な状況、更にNo31はイエスの決定的な死、受難。そしてNo32では復活の予兆が歌われ、続くNo33の合唱では聖所に入るイエス、すなわちイエスの復活が歌われます。—No34～36カット—No37の合唱では神の言葉を授かった伝道者達が四方八方へ伝道に出発する様子であり、No38

のソプラノ独唱は伝道者への賛美となっています。—No39カット—No40のバス独唱では神に反抗する人間の姿が描かれ、—No41カット—No42、43ではそういった人間に対する神の怒りと裁きが歌われます。No43の伴奏部には鉄のついで打ち砕く様子が大きな幅の音程を持つリズムによって描写されています。そして神に反抗する人間が裁かれ、いよいよ神の国が実現した時、神をたたえて歌われるNo44が有名なハレルヤ・コーラスです。ここで救いは成就され、第二部は終わります。

PART III

第二部までで神の国が打ち建てられるまでの歴史が語られ、この第三部ではそれ以後の世界の神に対する感謝や教義が語られます。No45のソプラノ独唱はキリストの死と永遠の生命を歌い、No46の合唱では、アダムが罪と死に於ける人類の代表であるのに対し、イエスは義と生命に於ける人類の代表であると歌います。

No47、48はバス独唱によって“最後の審判”が歌われ、復活のプロセスと永遠の栄光があらわれます。このアリアでは高音のトランペットによるオブリガードが加わり、非常に輝かしいものとなっています。—No49～52カット—No53は大規模な終曲合唱となっていて、神への賛美と感謝を歌い上げ、後半はアーメン・コーラスとして知られている壮大なフーガとなり、大きな高まりのうちに「メサイア」全曲が締めくくられます。

※ 発音資料提供 上智大学P. ミルワード教授

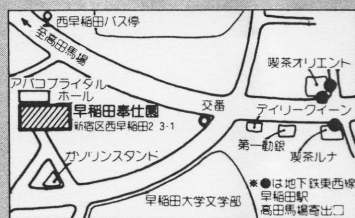
アマデウス合唱団

アマデウス合唱団は昨年4月に結成され、今年2月15日、上野石橋メモリアルホールで第一回演奏会を行ない、今日に至っております。第一回演奏会では、W・A・アマデウス・モーツァルトのレクイエムを演奏し、未熟ながら熱気あふれる演奏と評されました。結成時は20名程度だった団も、現在、80名以上になり、団員の年齢も16歳から70歳まで幅広く、また職業も様々です。現在、週1回の定期練習と月1回程度の日曜練習のほかに合宿も行ない、団員間の親睦を深めることによって、より良い音楽創りを目指しています。音楽的にも運営的にも、これから取り組むべき問題は数多くありますが、音楽への情熱と努力で成長して行きたいと思っております。

団員募集

＊フォーレレクイエム＊

練習は毎週水曜日、6時半より9時まで、早稲田専仕園にて行なっています。今年の12月にはクリスマス・コンサートも予定されています。経験は問いません。気軽においで下さい。連絡先/伊藤918-6569



第二回定演参加者 1981. Nov.

Soprano		Alt		Tenor		Bass	
天野久美子	石橋 真澄	鈴木 仲子	安達 知子	伊原 宏	黒瀬 智子	伊藤 通	黒後 智彦
石橋 真澄	大高真理子	清水 秀子	鈴木 仲子	大久保 訓	河合 敏夫	菅原 定三	菅原 定三
大高真理子	奥田 洋子	清水 秀子	鈴木 仲子	亀本 道政	鈴木 俊二	橋本 克久	橋本 克久
奥田 洋子	粕川 睦	清水 秀子	鈴木 仲子	鈴木 俊二	野口 碩	樋口 正文	樋口 正文
粕川 睦	鴨田ルミ子	清水 秀子	鈴木 仲子	野口 碩	三浦 恭裕	松本 啓一	松本 啓一
鴨田ルミ子	唐沢 尚子	清水 秀子	鈴木 仲子	三浦 恭裕	森山 克人	三浦 文夫	三浦 文夫
唐沢 尚子	窪田 玲子	清水 秀子	鈴木 仲子	森山 克人	山崎 厚	水谷 克巳	水谷 克巳
窪田 玲子	倉田千代美	清水 秀子	鈴木 仲子	山崎 厚	黒沢 満	山崎 和英	山崎 和英
倉田千代美	小林まり子	清水 秀子	鈴木 仲子	黒沢 満	協力(同窓会)	山崎 大介	山崎 大介
小林まり子	酒井希昌子	清水 秀子	鈴木 仲子	協力(同窓会)	塩崎 弘志	山谷 浩之	山谷 浩之
酒井希昌子	桜井 京子	清水 秀子	鈴木 仲子	塩崎 弘志	林 喜与志	佐々木景子	佐々木景子
桜井 京子	清水 秀子	清水 秀子	鈴木 仲子	林 喜与志	菅原 耕路	大沢 直子	大沢 直子
清水 秀子	鈴木 仲子	清水 秀子	鈴木 仲子	菅原 耕路	三浦 智行	杉浦 規子	杉浦 規子
鈴木 仲子		清水 秀子	鈴木 仲子	三浦 智行			

Amadeus Chorus